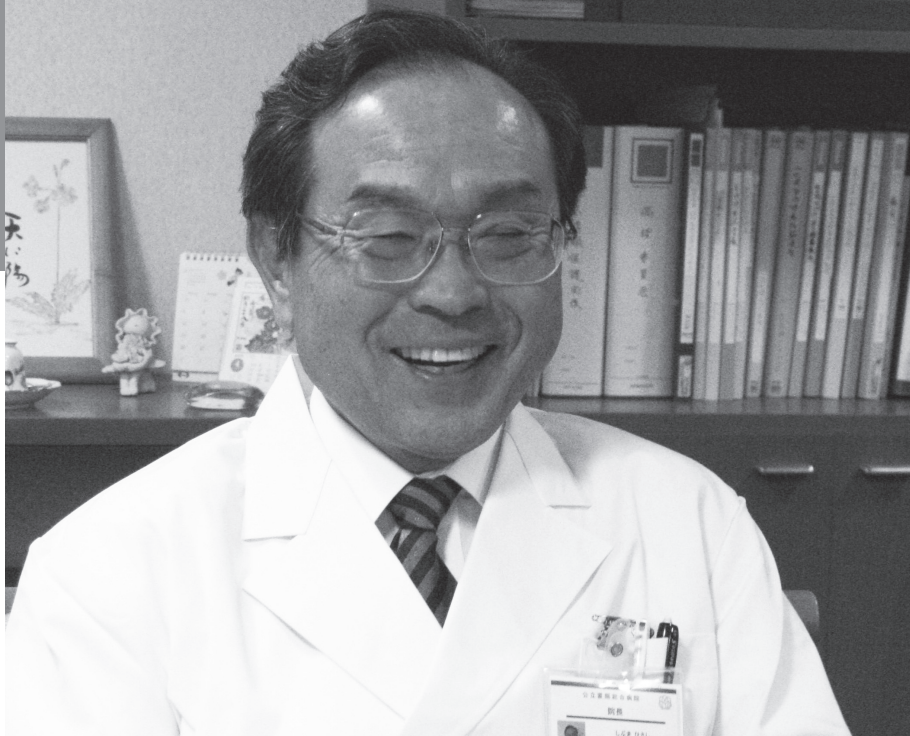


公立置賜総合病院長  
 渋間 久先生



# 山形県の 地域医療の牽引者として

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

## 山形県の卒業生のまとめ役として

山田隆司(聞き手) 今日山形県の公立置賜総合病院に渋間 久院長をお訪ねしました。先生とは東北地区のブロック会でご一緒して、先生のお話をぜひ伺いたいと思っていました。

まず読者の皆さんに自己紹介も兼ねて、先生のご経歴をお話いただけますか。

渋間 久 私は自治医科大学1期生の卒業です。卒業後山形県立中央病院で外科の研修をしました。山形県ではスーパーローテーション研修がなく、全員が県立中央病院でストレート研修に入りました。大学時代は成績も振わなかったの(笑)手先に技術を付けた方がいいかと思って外科を選びました。県立中央病院で3年の外科研修をして、3年目の冬に西川町立病院の外科医が交通事故で亡くなって外科の医者がいなく

なったということで、急きょ赴任することになりました。

そこで半分義務年限をこなしながら、県立中央病院や近くの県立河北病院に週1回のペースで外科の勉強をしに行きました。その後も山形県内のあちこちに満遍なく回りました。面白かったですし、それが私の原点になっていると思います。

山田 それは小さい病院なのですか。

渋間 小さい50床程度の病院です。医者は3人でしたね。

山田 外科医は1人ですか。

渋間 もちろんそうです。その病院では無理でしたが、その後赴任した庄内の町立(現在は酒田市立)八幡病院では自分で内視鏡をして胃癌を

見つけて自分で手術をして、というようなこともしていました。

**山田** そうなのですか。その西川町立病院や八幡病院は県の人事ですか。

**渋間** はい、当初は県庁が自治医大卒業生の人事を担当していました。でも私の義務が終わるころには、私が中心となって県と話し合い、この病院に何人、この診療所に何人と数だけ県の方から知らせてくれるようになりました。ですからこの20年くらいは派遣先と数だけを知らせてもらって、誰がどこへ行くかは義務年限内の卒業生が、私たちOBの助言を参考にして、自分たちで決めています。

**山田** 先生がまとめ役だったのですね。その人事に例えば大学の医局が関わるということはないのですか。

**渋間** ほとんどないですね。山形大学で臨床研修を

受けた場合や、入局した場合に、自治医大の義務などに関して事情を知らない山形大学医局には、県から説明して理解していただきました。

**山田** 卒業生の中で自分は小児科をやりたいとか耳鼻科をやりたいとか、診療科によって人事を動かすづらいということはないですか。

**渋間** ありますが、常にみんなで話し合いを持って決めています。継続性がないと駄目なわけですから、例えば小児科の得意な人がいるからその人が赴任した1年間だけ、町立病院で小児科を標榜させてほしいと言っても無理なのです。だから自分の専門科が何であれ勤めるときには一般内科、あるいは外科系ということでみんな納得しています。

**山田** では卒業生も了解してその中で話し合っただけで決めてきたという感じなのですね。

**渋間** そうです。

## 外科医から地域医療へ

**渋間** 山形県の医療の特徴として、民間病院がほとんどなく県立病院が中心であることが挙げられます。1つの例ですが、県のがん診療連携拠点病院というのは県に1つでその他に地域がん診療連携拠点病院がいくつかあります。山形県の場合は県立中央病院が都道府県がん診療連携拠点病院で、地域がん診療連携拠点病院として山形大学医学部附属病院、日本海総合病院、公立置賜総合病院、県立新庄病院、市立病院済生館があります。すべて県立か公立病院です。つまり山形県の1万1,000~2,000床の中心は県立、公立で民間がないのです。ですから山形県の地域医療を考えたときに、県立病院なしには考えられません。

**山田** そういう点では自治医大の卒業生がまず県立中央病院で初期研修を行い、その後県職員として人事を自分たちで話し合っただけで進めているのと協調しやすいですね。

**渋間** 私は県立中央病院で義務年限が明けてから20年くらい食道と胃の外科の仕事をしました。がん診療連携拠点病院なので全国レベルの学会で発表したりそれなりの成績も残しました。でもその間も地域の病院へ代診支援などに行っていましたので、山形県の地域医療についてはもちろん詳しいつもりでいました。それがあってか、県立中央病院が今の場所に新築移転する際に、地域医療部を立ち上げるからやってほしいと当時の院長に言われたのです。

**山田** それはいつごろですか？

**渋間** 平成13年5月に移転しました。それからだんだん外科以外の仕事が増え、登録医の制度や病院ボランティアなどの立ち上げも、山形市医師会の理事に推されてそちらの仕事もするようになりました。手術からは遠ざかったけれど外側を見るようになって少し世界が広がってきましたね。